

下商物語 その四十六

本校からプロ野球に 入団された選手のはなし

本校教諭 林 俊行

「下商」といえば「野球」と連想される卒業生が数多くおられることは、全国の支部総会に向くと本当によく分かります。遠く離れて生活される先輩方は、高校球児の活躍、取り分け母校の選手がとてども気になっておられます。下商硬式野球部の歴史は大変長く、高校野球の歴史と共に歩んだと言っても過言ではありません。また、今年夏の甲子園(選手権)大会は、第百回記念大会であり、優勝した大阪桐蔭高校や準優勝の金足農業高校などの活躍で大いに話題性に富んだ大会であったように思います。

今回は、今まで本校からプロ野球界へ進まれて活躍された二十五名の方々の紹介をしたいと思います。
※選手名・本校卒年・当時の球団名 ○特筆すべき事柄
追知 正己 昭和六年 大洋
○後に監督
鈴木 勝也 昭和七年
○セリーグ審判長 戸倉勝城氏
(豊浦高校出身で阪急元監督)
の兄

平山 菊二 昭和十一年 巨人
○遊撃手の魔術師といわれた名外
大洋
野手 本校在学中の二・三年は
ポーター部に在籍
矢野 純一 昭和十一年 大洋
○後に球団社長に
藤本(中上) 英雄 昭和十三年
巨人・中日 巨人
○プロ野球界初の完全試合達成
(昭和二十五年六月二十八日)
野球殿堂入り
大橋 智千 昭和十五年 巨人
長富 政武 昭和十六年 大洋
諏訪(高野) 裕良 昭和十七年
巨人・金星 大洋
永井 肇 昭和十九年 大洋
島田 光夫 昭和二十二年 巨人
引地 信之 昭和二十四年 大洋
多田 美昭 昭和二十七年 大洋
斎藤 勝秀 昭和二十七年 阪急
田口 司 昭和二十八年 西鉄
○本校在学中は軟式野球部
田頭 光男 昭和三十年 大洋
植田 征作 昭和三十三年 西鉄
高井良一男 昭和三十四年
阪神・大毎



藤本英雄選手



池永正明選手

田中 俊幸 昭和三十四年 南海
○セリーグ審判部長
佐々木 勲 昭和三十一年 巨人・中日
笠崎 壮夫 昭和三十五年 大洋
有光 肇明 昭和三十八年 阪神
○退団後に大学入学生と税理士の道へ
池永 正明 昭和四十年 西鉄
○在学時代全国選抜大会優勝・山口国体優勝投手
前田 三郎 昭和四十六年 広島
松井 満 昭和五十年 阪急
大久保弘司 昭和五十三年 大洋
明治三十一年に産声をあげた硬式野球部は名池山校舎の時代でグラウンドがとてども狭く活動するのも大変だったことや、戦中は現在の千畳原校舎のグラウンドが食料確保のための芋畑となり、戦後は練習できる環境に戻すために大変な努力をされたとの記録があります。

また、平成八年まで軟式野球部(翌年に廃部 全国制覇一回)と共に同じグラウンドでお互い背を向けながらも声をかけながら練習に励んでいたことは今では懐かしく思い出します。

現在、創部百二十年を越え、本校の現存する部活動では最も古い部活動(因みに講演部が最古参)であり、実に多くの名選手を輩出し、過去二十三回出場した甲子園大会(春十四回・夏九回)で優勝一回、準優勝二回、連続十回(戦争による中断あり) 出場の輝かしい記録があります。千畳原寮も改修され練習環境が一段と良くなった硬式野球部が近いうちに、甲子園大会出場して今後一人でも多くのプロ野球界で活躍する選手が出てくることに期待したいと思えます。

参考資料(掲載写真) 下商野球部百年史等